

◎特集

タイ国日本人会の

# 社会貢献活動

## 報告①

クロントイ幼稚園



毎年恒例のタイ国日本人会チャリティーバザー。有志企業が提供して下さる商品、日本人会会員の皆さんからの寄付による品々が会場に並びます。準備から当日のお手伝いまで、会員の方々のボランティアでなりたっているのがこのバザーの特徴です。

ヘルスアンドシェアファンデーション



収益と寄付金は、日本人会チャリティー基金運営委員会で検討され、支援が必要なタイの人々のもとに届けられます。今月号と来月号にわたり、日本人会がチャリティー支援している団体をご紹介します。

※今年のチャリティーバザーは来る10月21日(日)に開催されます！

支援

# クロントイ幼稚園

遠足費用・  
食堂改修工事費等

「年に一度の動物園の遠足を園児たちは心待ちに  
しています。雨が降ると水浸しになった食堂。  
改修して室内食堂になりました」

クロントイ幼稚園ボランティア 西井孝江



食堂改修工事完了  
きれいになりました!

改修前



改修後



改修後の  
食堂の  
出入口。



屋根があり壁に囲われているが屋外にあり害虫の侵入も頻繁。



ほぼ同じ位置から撮影しています。



大雨になると食堂の床を横切る排水溝から水が溢れることもあり、常に湿気を帯びていたコンクリートの床。



排水溝を移動し、床を埋め立ててタイル張りに。



隣の建物との間にある排水溝の位置から内側をブロック壁で仕切っている。



塗装し、照明器具、扇風機を設置。

以前、園児たちは排水溝のコンクリート蓋につまずくことがよくあったそうですが、改修後は安全で清潔感のある大変明るい雰囲気食堂になりました。

クロントイ幼稚園（正式名称  
・スーン パッタナ レ ボリ  
カーン クロントイ）は197  
3年、当時出生届が出されてい  
ないクロントイスラムの子ども  
のために、タイ、キリスト教団  
社会奉仕部によって設立。政府  
不認可の保育園であるため政府  
からの支援はなく、園を設立し  
た教団は現在では職員の最低賃  
金だけを保障しているのみで、  
定収入のないクロントイ幼稚園  
は運営のため、多岐にわたる支  
援を必要としています。

クロントイ幼稚園ボランティア  
アの活動は、1977年日本人  
駐在婦人有志によって始まりま  
した。月1回1時間半ほど幼稚  
園を訪問、園児たちとリサイク  
ル工作を行い園庭で遊んでいま  
す。メンバーは通常、駐在期間  
が数年と短いため、当初から継  
続しているメンバーはおらず常  
に入れ替わっています。この  
訪問活動がメインとなり現在ま  
で約40年以上続いています。活

動の記録によると、1986年  
度日本人会にクロントイ幼稚園  
への支援を求めて以来、チャリ  
ティーバザー基金より園で必要  
な物を毎年支援寄付していただ  
いています。

また、2001年度からは、  
園児たちのために遠足の費用も  
支援していただくようになりま  
した。タイの経済状況や社会情  
勢が変動する中、幼稚園にとっ  
て大変ありがたい長年継続して  
いただいている支援です。遠足  
は、以前園ではクリスマス会と  
並ぶ大イベントでしたが、20  
13年度末、約15年間に渡り園  
を支援していた宣教師一家が  
突然支援を打ち切り帰国したた  
め、園の運営は急激に悪化、他  
の年間行事は、止むを得ず縮小  
や中止となりました。

### 子どもたちが待ちこがれる 動物園への遠足

今年も2月7日（火）、ドウ  
シット動物園への遠足を実施し

ました。

今回は手足口病が流行してい  
たとのことで、園児の参加は61  
人中42人と例年に比べ少なめ  
でしたが、普段クロントイ地区か  
ら出る機会のない子どもたちは  
大型バスに乗って動物園へ行く  
この遠足を心待ちにしていま  
す。ボランティアにとっても、  
園児たちとの交流を深め、先生  
方から子どもたちの家庭環境や  
園の近況を聞くこともでき、貴  
重な時間をすごせる行事になっ  
ております。

### 食堂改修工事で 雨漏り・洪水解消

食堂改修工事を、年度替りの  
長期休み中に行いました。  
食堂は大雨になると雨水が吹  
きついたり、食堂の地面を横切  
る排水溝から水が溢れ昼食時  
もしばしば洪水になっていたそ  
うです。コンクリートの床もか  
なり劣化していました。今回、  
排水溝を移動し埋め立て、さら

に床の底上げ、タイル張りを行  
い、四方を仕切りドアを取り付  
け室内の食堂にするという大掛  
かりな改修工事となりました。  
幼稚園では、修理などでもできる  
だけクロントイ地区内の人を  
雇い、仕事のない人に仕事が  
できるようなシステムにして  
います。

園児たちの家庭環境は様々  
で、親が麻薬売買にかかわり刑  
務所に入っていたり、祖父母や  
親類、隣人に子どもを預けたまま  
蒸発したりと家族構成は複雑。  
貧しくても愛情のある家庭環境  
にいる子どもはほんの数名。日  
雇いの仕事にもつけず、20パー  
ツの給食代が払えないどころ  
か、家の電気・水道が止められ  
今日食べるものがないと園に泣  
きついてくる母親もいます。

2005年頃からスラムの母  
親たちが作るビーズアクセサリー  
の製作を園で始め、幼稚園主催  
の販売会を年間3回行っていま  
す。賛同、協力してくださる方



が多く10年以上続いています。  
販売会の際に呼びかけている古着、不用品は、持ち帰るのも運賃がかかってしまう地方から来る農家や小学校の販売団体に譲り、持ち帰りきれなかった不用品はバンコク近郊から来る他の販売団体と分け合います。バザーに持ち込めない大きな家具や、引越し、本帰国等でまとまった不用品を寄付してくださる方のために、幼稚園が直接回収するようになりました。  
ベビーカーやベッドなどは続けて使えるよう期間を決めて貸し出したり、壊れた家具や電化製品は近所の職人が直してくれることもあるそうです。古着や靴などは園児やスラムに暮らす収入のない家庭には優先的に配り、それ以外は、必要なものだけを選んで持ち帰るように5バーツ、10バーツでスラムの住民に販売、わずかですが園の収入にもなっています。

園では、地域の子どもたちの

ために放課後や土曜日も園庭を開放しています。宣教師が支援していた非行防止のためのフットボール活動を今でも自力で続けています。両親もおらず小学校4年までしか学校へ通わなかった卒園生を始めスラム出身の子どもたちが何人もプロのチームに引き抜かれ活躍していたり、毎年フットボールの奨学金制度で小学校に進学できる年長の子どもも数人いることが励みになり毎日夜遅くまで園庭で練習しています。

今年も、クロントイ幼稚園へのご支援をいただき心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

※次回のクロントイ幼稚園チャリティーバザーは11月28日（水）を予定しております。

※クロントイ幼稚園は、10月21日（日）日本人会チャリティーバザーにも出店致します。ぜひお越しください。



支援

## Health and Share Foundation

ヘルスアンドシェアファンデーション

HIV啓蒙

ファミリーキャンプ

開催費・奨学金

「HIVについて学ぶファミリーキャンプを  
開催。奨学金をHIV感染者及び感染者の  
家庭の子どもたちに支給しています」

「Health and Share

Foundation (HSSF)」

は、タイ東北部のウボンラチャ  
タニー県ケマラート郡でHIV  
／AIDS感染予防活動とHIV  
陽性者のサポートを行うタイ  
のNGO団体です。

私たちは去る5月26日～27  
日、HIVについて学ぶファミ  
リーキャンプを行いました。

参加者は36名、2歳から58  
歳。うち5名は母親からHIV  
感染しています。2名の子ども  
は既に母親がHIVで亡くなっ  
ています。また別の2名の子ど  
もは両親がおらず、孤児院にい  
たこともあります。現在親戚  
の家で暮らしています。周囲か  
らの差別があつて学校には行っ  
ていません。

キャンプでは年齢別に三つの  
グループに分かれ、おもに次の  
二つのテーマについて学びまし  
た。

① 性行為について

② 家族との付き合い方について

### ● 2歳～9歳のグループ

自然の物から作品を手作り  
し、知識を得て、物作りの仕事  
を覚えます。粘土工作は、子ど  
もたちは自分で表現し、考え、  
物語を作っていきます。

このグループでは、友達と一  
緒に物を作り、踊ったり、遊ん  
だり、一緒に食事をして、手を  
洗うこと、お風呂に入ること、  
頭を洗うこと、清潔を保つこと  
について学びます。



5月28日に行われた奨学金授与式。奨学金は、母親からHIV感染した子たちや、HIVで母を失い障がいのある祖父母と暮らしている家庭の子など、様々な困難を抱えながら学んでいる子どもたちに支給されています

### ●10歳から22歳のグループ

10歳～22歳の子どもたちは、性別や命について、性行為などについて学び、理解することを目指しました。子どもたちは驚いていましたが、男の子、女の子のグループに分かれ、絵を描いて説明。コンドームの使い方、HIVの説明等を行いました。そして、避妊や、自分で感染を防ぐこと、家族とのコミュニケーションの取り方などを学びました。

### ●大人・HIVの子どもたちと接する人向けのグループ

子どもたち、若者たちの問題について、コミュニケーションの取り方などを学びました。キャンプに参加した子どもや家族は、健康、性行為、家族との接し方などを学びました。今まで子どもに対してつい怒ってしまっていた人も、話を聞いて、落ち着いて対応できるようになりました。

キャンプに参加したある子どもは、「自分の意志が強くなった。人との付き合い方、友達との付き合い方も分かった。自分がHIVでも人と付き合い合えるということが分かった」と語っています。

また別の参加者は、「家族に感染者がいるけれど、自分はHIVに感染していない。でも小さいときから身体が弱かったし、差別されて誰も遊んでくれなかった。結局学校には行かなくなっていた。自分の周りの社会は暗かったけれど、キャンプに参加して、気持ちが楽になった」と言っています。

このキャンプを開催できる機会を与えてくださったタイ国日本人会に、感謝申し上げます。ありがとうございます。

またタイ国日本人会からの支援によってHIV感染者及び感染者の家庭の子女に対して奨学金を支給しており、5月28日に授与式を行ったことを報告いたします。